

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400053		
法人名	有限会社 クラスタ		
事業所名	やぎあん	ユニット名	1F
所在地	宮城県仙台市太白区八木山南3丁目1番地12号		
自己評価作成日	平成 23年 12月 28日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 25 年 2 月 18 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※ケアプランの内容を基にケース記録用紙を作成し毎日職員が意識できるとともに、プランに対しての評価や継続性が得られやすいので、利用者様に必要な支援が提供される。※入居者様にとって、ご自宅のように安心出来る場所、くつろげる場所(居場所)となるため今までの生活スタイルを継続できるよう支援し、希望も極力叶えられるよう取り組んでいる。 ※拘束ゼロを掲げ、インシデント・アクシデントを全職員で話し合い、尊厳ある生活を維持しながら事故防止を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年目のグループホームである。入居者一人ひとりの「我がまま」を意識し、字の上手な方、接待上手な方、台所仕事の得意な方、花活けの好きな方等力を発揮できる場を提供し、一人ひとりの満足度を高める支援をしている。月一度のカンファレンスは入居者の支援に関する検討だけでなく家族の要望、職員意見など何でも話し合う場になっており、居室への冷房装置の設置、洗濯機の買い替え、洗濯機の購入など話し合い実現されている。スピーディーな対応を望む職員から管理者への要望も受け止め運営に反映させている。職員はカンファレンスでの話し合いが充実していることが当事業所の自慢であると述べている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やぎあん)「ユニット名 1F 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「我がままに」を理念とし、地域生活も含めたその方の生き方を大切にしていく。職員は言動一つ一つを確認しながらその方が望む事の実現に向け支援している。	理念として掲げる「我がまま」を基本に職員で行動指針を作成した。入居者一人ひとりの起床時間や買い物、食事の量、入浴時間など本人の意向に添った支援に努め、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で行う夏祭りや、防災訓練に地域の方を招いたり、また、日常的には散歩・外気浴の機会が多く話しかけて下さる地域住民の方も増えている。	町内会に参加し、今冬は近所の雪かきに協力した。事業所の夏祭りには30人位の方の参加があり、交流した。ハローウィンには子供たちの来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はなかなか地域むけて発信していく機会が無く来年度に改善していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月ごとの行事や日常のご様子を広報紙等用いご紹介している。懇談会で広くご意見も伺い、ご意見に対しては次回運営推進会議で結果を報告している。	年に6回開催のうち、地域包括支援センターの参加は2回である。メンバーから事業所の行事を近所にも知らせたいとの意見にはポスティングするなど対応し、防災訓練についての質問には訓練の内容を説明した。	年6回開催のうち少なくとも4回は、行政又は地域包括支援センターの参加が必要である。民生委員にも声掛けして参加を促し、外部評価についても議題として取り上げていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	あまり連絡する機会がなく来てしまったので来年度は積極的に取り組んでいきたい。	事故のあった時は市へ連絡し対応等の相談をしている。市の集団指導に参加し、介護相談員の受け入れをしている。法令等の解釈について問い合わせをしているが、担当窓口には積極的に出向いていただきたい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を行っており、基準上拘束となる行為はもちろん、言葉の選択によっては、ご本人の行動も制限しうることを意識関わっている。また、緊急やむ得ない場合の拘束に関する3つの条件を把握することで、常に代替え策を考え拘束しない介護を目指している。	年に3、4回研修を行い職員は拘束することの弊害について理解している。日中の施錠やセンサー、チャイムは設置していない。「身体拘束等、行動制限について」の取り決めを遵守し、家族に説明し、同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年、職員が利用者様に手を挙げてしまう事実があり、二度と繰り返されないよう仙台市に相談させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時に研修を行っているが活用機会は少ない。今後も機会を見ながら現任者を対象として内外の研修に取り組みたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間をご家族様にとっていただき説明を行っている。また、契約以降でも疑問がある場合はいつでも尋ねていただけるようご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からのご意見はカンファレンスやチーフ会議を通し話し合い、改善に努めている。ご家族様からはプランの更新時や運営推進会議でご意見を伺っている。又、23年度から介護相談員のかたに訪問していただいている。	面会時や利用料支払い時、ケアプラン更新時に主に聞き取っている。食事量の意見については看護師と相談し、対応した。居室に冷房装置設置の要望があり法人と協議し全室設置した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを開催し、法人役員も参加しながら意見反映に努めているが職員からは更なる意見反映を求める声もあり強化を図りたい。	法人役員参加のカンファレンスで意見や要望を話し合う。洗濯機の買い替えや勤務シフト、休暇のことなど運営に反映され改善されている。職員からはスピーディな対応を求められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年の契約更新時に給与の引き上げを行っている。また、経験、年数に応じながらパート職員から社員雇用を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や個人の自己評価を行うことで一人一人の思考や力量を把握し、段階的に学んでいけるよう内部研修を行っている。また、事業所内で完結するのではなく外部研修を勧め、広い視野、知識が得られるよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の職員が行事へ参加するなど交流機会を設けている。また、会話の中から他事業所の取り組みなど聞くことでサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に聞き取り調査を行いニーズの把握に努めている。又、プランにも反映されておりサービス提供につながっている。利用以降もご意見を聞き、言葉に出来ない方に関しても表情や仕草から読み取り関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご家族様からも聞き取りを行い、直接的にまたは、ちょっとした会話から思いをくみ取る努力をしている。また、利用者様のご様子なども報告し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居決定前にご自宅等へお伺いし、ご本人状況や望まれていることの把握に努め、必要によっては他のサービスについて説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を大切にすることはもちろんであるが、調理や洗濯といった家事などを一緒に行うことで助け、助けられといった相互の関係をきづいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の多いご家族様にはその都度心身状況をお伝えしたり、少ない方には電話や手紙でお伝えしている。又、行事等にもお誘いし関わる機会が増えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望により、ご家族様や友人に電話連絡や手紙が送れるよう支援している。また、もともと通っていた病院、美容院、スーパーなども利用している。	面会者は家族の他、親戚、友人、知人などで毎日訪れる人もいる。入居後仲良しになった方はいつも隣に座り、声掛け合ったりしている。帰宅願望の方には買い物ついでに旧宅へドライブをして対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事、余暇活動、外出等、各場面で全体や少人数での関わり機会を持ち、協力したり、一緒に笑ったり、慰め合ったりし生活されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ、実績はないが今後退居される方には必要に応じた相談、支援をしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で、ご本人が選択出来るよう意識すると共に、意見や意向を引き出し言動から読み取ることを大切にしている。また、意志表現の困難な方に対しても昔のご様子や一般的に考えられることから想像し検討している。	昔の生活のことなどを聞き取り、支援につなげている。顔が赤かったり、座り方がずれていたりする時はトイレや痛みなどを察知する。起床時の服選びには何点か示して選びやすいように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や面会にこられた友人などのお話を聞き生活歴の把握に努めている。また、ご本人様からも普段の会話を通し把握に努めケアの実践につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を整備しており、一日のご様子(心身状態、活動状況)や健康状態を細かく記載し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意向を踏まえカンファレンスで全職員が意見を出し合う機会を持ち介護計画を作成している。また、必要に応じ医師、看護師より助言を頂いている。	アセスメントシートから暫定プランを作り、カンファレンスにかける。職員全員が意見を述べ、ケアプランを作成する。三ヶ月ごとに見直しをし、必要であれば計画を変更して家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を元にしたケース記録を使用し、課題となる出来事に対して行った考えや工夫、そして結果へと結びつくよう記録している。また、職員の気づきが更に活かせるよう管理者との交換ノートを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズや状況により、勤務時間帯の工夫や職員配置を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護保険利用前から地域で関わっていた人や場所また、入居後出来た馴染みの店など買い物へ出かけることで声をかけてくださる方もおり利用者様から出かけたいと希望を話されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医とは別に以前からかかりつけとなっていた各専門医への受診を希望される方もおり、ご家族様のご希望により通院介助や通院への付き添いを行い状況説明等行っている。	2週に一度協力医の訪問診療がある。専門医への受診は家族の都合が悪い時は事業所に対応している。本人の状況は書面で伝え、結果は診療記録簿に記録される。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置し、24時間オンコールとなっている。また、日常記録とは別に健康状態を記録し協力医を始め各医療機関へ受診を行っている。また、定期受診などであれば職員も通院介助に入るなど早めの受診が出来るよう検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急変があった場合に情報がすぐに提供出来るよう一覧としてまとめている。また、ご家族の了承を得ながら医師やケースワーカーの説明機会に立ち会い今後の対応を相談させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取りに関する指針」を説明しながら意向の確認に努めている。また、重度化に伴い、ご家族様の意向を確認すると共に事業所として出来ることを説明し医師や職員とも十分協議し支援に取り組んでいる。	事業所の終末期支援の指針として、胃ろうなどの医療行為は難しいなど、事業所としてできる事、できない事を説明し、意思の確認をしている。看取り支援の経験はないが、急変し病院に運ばれた方はいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	前回の研修から期間が空き、新人職員も多くなっていることから早急且つ定期的に研修を行っていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	職員が地域の防災訓練へ参加するとともに、事業所内でも防災訓練を行い地実践で役立つよう取り組んでいる。	前年の訓練は1回であった。昨年の要改善点であった、地域住民の参加協力は達成が不十分である。マニュアル、スプリンクラー、防災設備等の点検、事業所内の避難通路の確保、備蓄はなされている。	夜間想定を含め、最低でも年2回は行っていただきたい。事業所のお隣の協力は得られそうであるが、協力を得られる範囲を少し広げる必要があると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄等の場面で羞恥心に配慮し、声掛けのタイミングやトーンなどに気を配ると共に、同姓介助を希望される方には柔軟に対応している。	名前にさん付けで呼びかけている。居室への出入りは本人に断って行っている。耳の遠い方にむやみに大声での言葉かけをしない、馴れ合いにならないように、など言葉遣いに特に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニューや衣類の選択など様々な場面でご本人に伺い支援につなげている。また、選択することが困難な方にも選択肢を提起し選らんで頂くなど配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れを決定する場合でも、常に利用者様一人一人の生活ペースが守られるように配慮している。又、その時々状況に応じて柔軟に対応出来るよう普段から意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にはご本人が衣類を選び着用している。迷われたりされるときには、季節も伝えながら一緒に選んでいる。女性利用者の方では化粧をされる方もおり化粧品なども購入できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事チエツク表を利用し、好みを把握するとともにご本人の、その時々希望も伺いメニュー作りをしている。また、買い物から調理まで利用者様に関わっていただき「これは上手いよ」など会話しながら食事をとっている。	配食業者が配達する食材を調理するユニットと、食材を買い調理をするユニット、それぞれである。熱心に台所を手伝う方がおり、温かく見守っている。職員も一緒に食卓は会話が弾み和やかな食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を記録し、一人ひとりにあった量が提供出来るよう生活習慣により食べる時間を変更したり、量が少ないときには補食としてご本人の好みの物など提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声がけや、必要に応じ出来ないところ(用具を用意する、うまく磨けない方)を介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへご案内しても断られる方がいらっしゃるが少し時間を置いて声掛けしたり、活動機会を設けることでトイレ立ちの機会となるよう行っている。	チェック表からパターンを把握し、トイレ誘導に努め日中おむつの方はいない。トイレ誘導しにくい方には台所仕事に立つ時などにタイミングよく声掛けしトイレに誘うなど工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の確保や繊維質の食材を取り入れたり、運動ではテレビ体操や散歩の機会を多く取り入れている。それらの対応によっても解消されない方に関しては主治医の指示の基、下剤や漢方薬にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人が好きなお時間に入れるよう配慮したり、入浴を好まれない方にも入浴剤を変えて声がけしたりと入浴が楽しみとなるよう支援している。	週に2、3回が多いが毎日入れる態勢である。本人が好む時間に入れるように柔軟に対応している。拒否の方には誘導上手な職員が対応し成功している。時にはしょうぶ湯やゆず湯を楽しめる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方に無理に睡眠を進めず、一緒に過ごしたりし安心していただけるよう配慮している。また、睡眠不足の方には、仮眠をとっていただき体調を崩さないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成し効能や副作用を確認している。また、薬が変更になったときには申し送りノートを活用し全職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	俳句、書道、縫い物など昔の仕事や趣味を活かし掲示物や飾りを行って頂いている。また、調理など出来るとこは積極的に行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行に不安のある方や室内にこもりがちな方でも庭先での外気浴が楽しめるよう支援している。	暖かい時は玄関先のベンチで外気浴をし、犬好きの方は近所の犬を見に毎日散歩している。家族と温泉や展覧会に出掛け、知人の通夜に職員と参加した方もいる。行事係が秋保や定義山などへのドライブを計画し実行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事業所で預かっているが買い物ではご自分で選びお金を出して購入出来る方がおり必要などを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されなくなってきており、殆ど行われていないが必要に応じ支援していきたいと考えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こたつやソファなどくつろげるよう整備し語らいの場となっている。室温調整では温度計を設置しこまめに確認すると共に利用者様の声に応じて調整している。	居間兼食堂の広い窓を背に置かれたソファに入居者が寛いでおり、訪問した調査員にソファを勧め、お茶を接待してくれるなど、落ち着いて明るい雰囲気でのびのびしている様子が見て取れた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや小上がりにこたつを置きスペースを確保し、利用者様同士で思い思いに過せたり、一人のんびり過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から愛着のあるものを持ち込んで頂くよう話をしている。また、ホームでの思い出としても写真など飾り居心地の良い空間作りに努めている。	家族の写真や位牌、使い慣れた物入れなどを持ち込み安心して暮らせるように設えられている。掃除は自分で毎日する方もいるし、職員が対応している部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所がオープンキッチンで、利用者様が出入りしやすいようになっており、調理へ参加する機会に繋がっている。又、手すりも各所に設置しており、安全に移動出来ている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400053		
法人名	有限会社 クラスタ		
事業所名	やぎあん	ユニット名	2F
所在地	宮城県仙台市太白区八木山南3丁目1番地12号		
自己評価作成日	平成 23年 12月 28日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 年 月 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※ケアプランの内容を基にケース記録用紙を作成し毎日職員が意識できるとともに、プランに対しての評価や継続性が得られやすいので、利用者様に必要な支援が提供される。※入居者様にとって、ご自宅のように安心出来る場所、くつろげる場所(居場所)となるため今までの生活スタイルを継続できるように支援し、希望も極力叶えられるよう取り組んでいる。 ※拘束ゼロを掲げ、インシデント・アクシデントを全職員で話し合い、尊厳ある生活を維持しながら事故防止を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年目のグループホームである。入居者一人ひとりの「我がまま」を意識し、字の上手な方、接待上手な方、台所仕事の得意な方、花活けの好きな方等力を発揮できる場を提供し、一人ひとりの満足度を高める支援をしている。月一度のカンファレンスは入居者の支援に関する検討だけでなく家族の要望、職員意見など何でも話し合う場になっており、居室への冷房装置の設置、洗濯機の買い替え、洗濯機の購入など話し合い実現されている。スピーディーな対応を望む職員から管理者への要望も受け止め運営に反映させている。職員はカンファレンスでの話し合いが充実していることが当事業所の自慢であると述べている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やぎあん)「ユニット名 2F 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「我がままに」を理念とし、地域生活も含めたその方の生き方を大切にしていく。職員は言動一つ一つを確認しながらその方が望む事の実現に向け支援している。	理念として掲げる「我がまま」を基本に職員で行動指針を作成した。入居者一人ひとりの起床時間や買い物、食事の量、入浴時間など本人の意向に添った支援に努め、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で行う夏祭りや、防災訓練に地域の方を招いたり、また、日常的には散歩・外気浴の機会が多く話しかけて下さる地域住民の方も増えている。	町内会に参加し、今冬は近所の雪かきに協力した。事業所の夏祭りには30人位の方の参加があり、交流した。ハローウィンには子供たちの来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はなかなか地域むけて発信していく機会が無く来年度に改善していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月ごとの行事や日常のご様子を広報紙等用いご紹介している。懇談会で広くご意見も伺い、ご意見に対しては次回運営推進会議で結果を報告している。	年に6回開催のうち、地域包括支援センターの参加は2回である。メンバーから事業所の行事を近所にも知らせたいとの意見にはポスティングするなど対応し、防災訓練についての質問には訓練の内容を説明した。	年6回開催のうち少なくとも4回は、行政又は地域包括支援センターの参加が必要である。民生委員にも声掛けして参加を促し、外部評価についても議題として取り上げていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	あまり連絡する機会がなく来てしまったので来年度は積極的に取り組んでいきたい。	事故のあった時は市へ連絡し対応等の相談をしている。市の集団指導に参加し、介護相談員の受け入れをしている。法令等の解釈について問い合わせをしているが、担当窓口には積極的に出向いていただきたい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を行っており、基準上拘束となる行為はもちろん、言葉の選択によっては、ご本人の行動も制限しうることを意識関わっている。また、緊急やむ得ない場合の拘束に関する3つの条件を把握することで、常に代替え策を考え拘束しない介護を目指している。	年に3、4回研修を行い職員は拘束することの弊害について理解している。日中の施錠やセンサー、チャイムは設置していない。「身体拘束等、行動制限について」の取り決めを遵守し、家族に説明し、同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年、職員が利用者様に手を挙げてしまう事実があり、二度と繰り返されないよう仙台市に相談させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時に研修を行っているが活用機会は少ない。今後も機会を見ながら現任者を対象として内外の研修に取り組みたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間をご家族様にとっていただき説明を行っている。また、契約以降でも疑問がある場合はいつでも尋ねていただけるようご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からのご意見はカンファレンスやチーフ会議を通し話し合い、改善に努めている。ご家族様からはプランの更新時や運営推進会議でご意見を伺っている。又、23年度から介護相談員のかたに訪問していただいている。	面会時や利用料支払い時、ケアプラン更新時に主に聞き取っている。食事量の意見については看護師と相談し、対応した。居室に冷房装置設置の要望があり法人と協議し全室設置した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを開催し、法人役員も参加しながら意見反映に努めているが職員からは更なる意見反映を求める声もあり強化を図りたい。	法人役員参加のカンファレンスで意見や要望を話し合う。洗濯機の買い替えや勤務シフト、休暇のことなど運営に反映され改善されている。職員からはスピーディな対応を求められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年の契約更新時に給与の引き上げを行っている。また、経験、年数に応じながらパート職員から社員雇用を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や個人の自己評価を行うことで一人一人の思考や力量を把握し、段階的に学んでいけるよう内部研修を行っている。また、事業所内で完結するのではなく外部研修を勧め、広い視野、知識が得られるよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の職員が行事へ参加するなど交流機会を設けている。また、会話の中から他事業所の取り組みなど聞くことでサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に聞き取り調査を行いニーズの把握に努めている。又、プランにも反映されておりサービス提供につながっている。利用以降もご意見を聞き、言葉に出来ない方に関しても表情や仕草から読み取り関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご家族様からも聞き取りを行い、直接的にまたは、ちょっとした会話から思いをくみ取る努力をしている。また、利用者様のご様子なども報告し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居決定前にご自宅等へお伺いし、ご本人状況や望まれていることの把握に努め、必要によっては他のサービスについて説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を大切にすることはもちろんであるが、調理や洗濯といった家事などを一緒に行うことで助け、助けられといった相互の関係をきづいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の多いご家族様にはその都度心身状況をお伝えしたり、少ない方には電話や手紙でお伝えしている。又、行事等にもお誘いし関わる機会が増えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望により、ご家族様や友人に電話連絡や手紙が送れるよう支援している。また、もともと通っていた病院、美容院、スーパーなども利用している。	面会者は家族の他、親戚、友人、知人などで毎日訪れる人もいる。入居後仲良しになった方はいつも隣に座り、声掛け合ったりしている。帰宅願望の方には買い物ついでに旧宅へドライブをして対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事、余暇活動、外出等、各場面で全体や少人数での関わり機会を持ち、協力したり、一緒に笑ったり、慰め合ったりし生活されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ、実績はないが今後退居される方には必要に応じた相談、支援をしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で、ご本人が選択出来るよう意識すると共に、意見や意向を引き出し言動から読み取ることを大切にしている。また、意志表現の困難な方に対しても昔のご様子や一般的に考えられることから想像し検討している。	昔の生活のことなどを聞き取り、支援につなげている。顔が赤かったり、座り方がずれていたりする時はトイレや痛みなどを察知する。起床時の服選びには何点か示して選びやすいように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や面会にこられた友人などのお話を聞き生活歴の把握に努めている。また、ご本人様からも普段の会話を通し把握に努めケアの実践につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を整備しており、一日のご様子(心身状態、活動状況)や健康状態を細かく記載し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意向を踏まえカンファレンスで全職員が意見を出し合う機会を持ち介護計画を作成している。また、必要に応じ医師、看護師より助言を頂いている。	アセスメントシートから暫定プランを作り、カンファレンスにかける。職員全員が意見を述べ、ケアプランを作成する。三ヶ月ごとに見直しをし、必要であれば計画を変更して家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を元にしたケース記録を使用し、課題となる出来事に対して行った考えや工夫、そして結果へと結びつくよう記録している。また、職員の気づきが更に活かせるよう管理者との交換ノートを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズや状況により、勤務時間帯の工夫や職員配置を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護保険利用前から地域で関わっていた人や場所また、入居後出来た馴染みの店など買い物へ出かけることで声をかけてくださる方もおり利用者様から出かけたいと希望を話されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医とは別に以前からかかりつけとなっていた各専門医への受診を希望される方もおり、ご家族様のご希望により通院介助や通院への付き添いを行い状況説明等行っている。	2週に一度協力医の訪問診療がある。専門医への受診は家族の都合が悪い時は事業所に対応している。本人の状況は書面で伝え、結果は診療記録簿に記録される。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置し、24時間オンコールとなっている。また、日常記録とは別に健康状態を記録し協力医を始め各医療機関へ受診を行っている。また、定期受診などであれば職員も通院介助に入るなど早めの受診が出来るよう検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急変があった場合に情報がすぐに提供出来るよう一覧としてまとめている。また、ご家族の了承を得ながら医師やケースワーカーの説明機会に立ち会い今後の対応を相談させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取りに関する指針」を説明しながら意向の確認に努めている。また、重度化に伴い、ご家族様の意向を確認すると共に事業所として出来ることを説明し医師や職員とも十分協議し支援に取り組んでいる。	事業所の終末期支援の指針として、胃ろうなどの医療行為は難しいなど、事業所としてできる事、できない事を説明し、意思の確認をしている。看取り支援の経験はないが、急変し病院に運ばれた方はいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	前回の研修から期間が空き、新人職員も多くなっていることから早急且つ定期的に研修を行っていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員が地域の防災訓練へ参加するとともに、事業所内でも防災訓練を行い地実践で役立つよう取り組んでいる。	前年の訓練は1回であった。昨年の要改善点であった、地域住民の参加協力は達成が不十分である。マニュアル、スプリンクラー、防災設備等の点検、事業所内の避難通路の確保、備蓄はなされている。	夜間想定を含め、最低でも年2回は行っていただきたい。事業所のお隣の協力は得られそうであるが、協力を得られる範囲を少し広げる必要があると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄等の場面で羞恥心に配慮し、声掛けのタイミングやトーンなどに気を配ると共に、同姓介助を希望される方には柔軟に対応している。	名前にさん付けで呼びかけている。居室への出入りは本人に断って行っている。耳の遠い方にむやみに大声での言葉かけをしない、馴れ合いにならないように、など言葉遣いに特に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニューや衣類の選択など様々な場面でご本人に伺い支援につなげている。また、選択することが困難な方にも選択肢を提起し選らんで頂くなど配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れを決定する場合でも、常に利用者様一人一人の生活ペースが守られるように配慮している。又、その時々状況に応じて柔軟に対応出来るよう普段から意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にはご本人が衣類を選び着用している。迷われたりされるときには、季節も伝えながら一緒に選んでいる。女性利用者の方では化粧をされる方もおり化粧品なども購入できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事チエツク表を利用し、好みを把握するとともにご本人の、その時々希望も伺いメニュー作りをしている。また、買い物から調理まで利用者様に関わっていただき「これは上手いよ」など会話しながら食事をとっている。	配食業者が配達する食材を調理するユニットと、食材を買い調理をするユニット、それぞれである。熱心に台所を手伝う方がおり、温かく見守っている。職員も一緒に食卓は会話が弾み和やかな食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を記録し、一人ひとりにあった量が提供出来るよう生活習慣により食べる時間を変更したり、量が少ないときには補食としてご本人の好みの物など提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声かけや、必要に応じ出来ないところ(用具を用意する、うまく磨けない方)を介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄行為でどこまで出来るのか見極め、出来ない部分を介助している。また、排泄のパターンを把握しご案内する事でトイレでの排泄に繋がっている。	チェック表からパターンを把握し、トイレ誘導に努め日中おむつの方はいない。トイレ誘導しにくい方には台所仕事に立つ時などにタイミングよく声掛けしトイレに誘うなど工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の確保や毎日の牛乳提供、繊維質の食材を取り入れたり、運動ではテレビ体操や散歩の機会を多く取り入れている。それらの対応によっても解消されない方に関しては主治医の指示の基、下剤や漢方薬にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人が好きな時間に入れるよう配慮したり、入浴を好まれない方にも入浴剤を変えて声がけしたりと入浴が楽しみとなるよう支援している。	週に2、3回が多いが毎日入れる態勢である。本人が好む時間に入れるように柔軟に対応している。拒否の方には誘導上手な職員が対応し成功している。時にはしょうぶ湯やゆず湯を楽しめる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方に無理に睡眠を進めず、一緒に過ごしたりし安心していただけるよう配慮している。また、睡眠不足の方には、仮眠をとっていただき体調を崩さないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成し効能や副作用を確認している。また、薬が変更になったときには申し送りノートを活用し全職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や洗濯などで関わりを持ち、日課となり行われている方もいる。余暇の過ごし方としても、様々レクリエーションを考えたり、夜にある歌番組を毎週録画しみんなで楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩を希望される方や必要な物を買いたいと話される方がおり一緒に外出する機会が多い、また室内で過ごしやすい方にもドライブへお誘いし楽しみ、気分転換を図っている。	暖かい時は玄関先のベンチで外気浴をし、犬好きの方は近所の犬を見に毎日散歩している。家族と温泉や展覧会に出掛け、知人の通夜に職員と参加した方もいる。行事係が秋保や定義山などへのドライブを計画し実行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理されている方もおり、ご自分から買い物へ行きたいと希望を話され、適宜対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時には、いつでもご利用頂いている。また、うまく会話出来ない方でも職員が介し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間には照明を落とし夜の雰囲気を演出している。照明も暖かみのある電球を使用している。トイレ内などニオイがこもる場所には消臭剤を置き不快が無いよう配慮している。室温調整では温度計を設置しこまめに確認すると共に利用者様の声に応じて調整している。	居間兼食堂の広い窓を背に置かれたソファーに入居者が寛いでおり、訪問した調査員にソファーを勧め、お茶を接待してくれるなど、落ち着いて明るい雰囲気でのびのびしている様子が見て取れた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや簡易ベットを設置し少し休まれたり、利用者様の語らいのスペースとなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から愛着のあるものを持ち込んで頂くよう話をしている。また、ホームでの思い出としても写真など飾り居心地の良い空間作りに努めている。	家族の写真や位牌、使い慣れた物入れなどを持ち込み安心して暮らせるように設えられている。掃除は自分で毎日する方もいるし、職員が対応している部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所がオープンキッチンで、利用者様が出入りしやすいようになっており、調理へ参加する機会も多い。又、手すりも各所に設置しており、安全に移動出来ている。		